

FD^{*1}高橋 弘明^{*2}

1. はじめに

FD (Faculty Development) が持つ意味は幅広いが、本稿では特に学習指導者の教育能力開発としてのFD活動およびワークショップ (WS) の紹介に焦点を絞って解説する。

1996年に学内WSを実施している大学は20%¹⁾と報告されたが、その後の調査^{2, 3)}によれば、現在、ほとんどの大学でFDが行われている。また、2004年に必修化された医師臨床研修制度が定着し、大学等の教育機関だけではなく研修病院等でもFDの重要性が改めて認識され、浸透した。

2. 医学教育者のためのワークショップ (富士研WS)

1974年から毎年1回行われている本WSは2009年に36回を迎えた。以前は旧文部省と旧厚生省両省が主催し、日本医学教育学会・医学教育振興財団が後援したが、2006年第33回の医学教育学会の主催を経て、第35回から日本医学教育学会・文部科学省・厚生労働省が共催している。また、国民のニーズにマッチした医療人を育成するためには、歯学教育、薬学教育、医学教育の連携をより緊密にしていくことが必要と考え、日本歯科医学教育学会と日本薬学会薬学教育部からも各1名の参加を得るようになった。

このWSで継続している主題は「医学教育・医療の現場における諸課題の解決に向けて」—ファカルティ・デイベロップメントを企画・運営できる人材の養成—であり、第1回から継続して

カリキュラム・プランニングをその基本に置いている。さらに毎年の医学教育を取り巻く種々の課題に対応すべく、あらたなサブ・テーマを取り入れてきた。2009年は、医道審議会臨床研修部会による「臨床研修制度に対する意見のとりまとめ」、および医学教育カリキュラム検討会による「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について」が提出され、第36回富士研WSでは、これらをもとに参加者による「卒前・卒後の医学教育、そのつながりを観点とした医学教育改善に関する提言」をまとめ、医学教育紙上および学会ホームページに掲載することになった。

3. 全国医科大学・医学部におけるFD

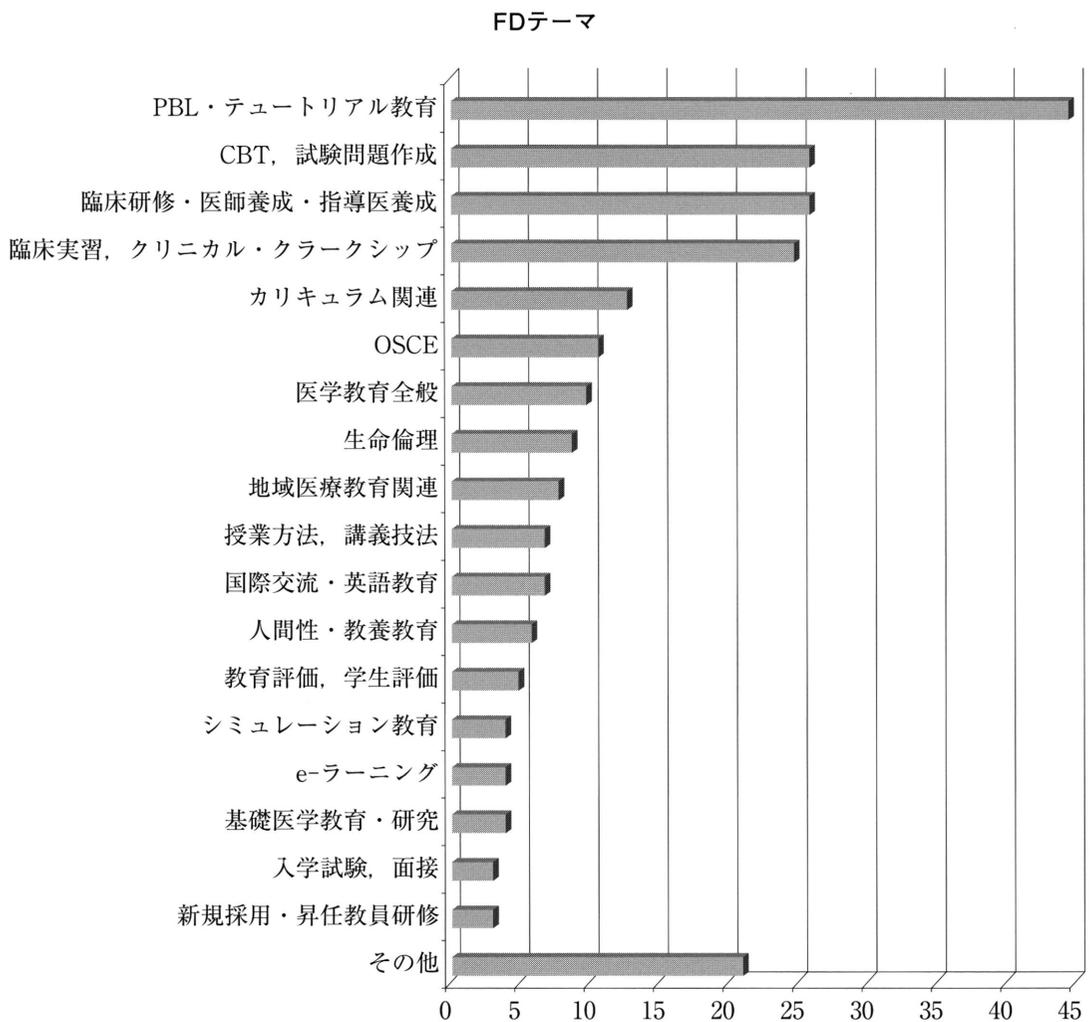
診療チームの一員として診療に参加しながら学ぶ診療参加型臨床実習 (クリニカル・クラークシップ) が広く行われるようになり、医学生が医行為を行うことの質の保証を担保するために、2002年からのトライアルを経て、2006年度から共用試験が正式実施された。また、医学・医療の進歩やこれらを取り巻く環境・疾病構造の変化に伴って、2007年に医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が行われた。これらに平行して、PBL テュートリアル等にみられる医学教育手法の変化や教育カリキュラムの改革も進められた。学部教育をとりまく環境の変化に対応するように、2008年度の全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会の調査によれば、ほとんどの医学系大学で学習指導者のFDが行われている (表1)³⁾。FDのテーマはPBL・テュートリアルが最も多く、CBT・試験問題作成、臨床研修・医師養成・指導医養成、臨床実習、クリニカル・クラークシップの順であった (図1)³⁾。この調査では大学院におけるFD調査も初めて行われ

^{*1} FD (Faculty Development)

^{*2} Hiroaki TAKAHASHI 岩手県立中央病院医療研修部

表1 全国医学部における学内研修会（FD）の実態調査報告³⁾

FD 開催回数（医学部数）		FD 参加者数	
0回	1校	～20名	33回
1回	29校	21～40名	80回
2回	15校	41～60名	48回
3回	12校	61～80名	28回
4回	13校	81～100名	15回
5回以上	10校	101～150名	4回
		150名以上	5回

図1 テーマ（全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会，2008年度調査³⁾）

た。

4. 臨床研修指導医養成講習会

2004年に必修化された卒後臨床研修の指導医は、2009年4月から「7年以上の臨床経験を有する者であって、プライマリ・ケアの指導法等に関する講習会を受講していること」に改められた。2004年に厚生労働省から示された開催指針に則った指導医講習会の受講が指導医の要件になったこともあり、全国で各種団体による指導医講習会が実施され、厚生労働省・医師臨床研修推進室の調査では2009年3月時点の講習会受講者は31,300人になった。

さらに臨床研修指導医養成講習会を修了し、実際にプログラムの立案・作成に携わっている指導者を対象としたプログラム責任者養成講習会も臨床研修協議会が継続して開催している。

5. その他のワークショップ

岐阜大学に敷設されている医学教育開発研究センターが主催する医学教育セミナーとWSは、2000年に始まった。岐阜大学あるいは共催の各

大学・施設等を会場として毎回種々のテーマを取り上げ、2009年に開催34回を数えた。

また、2009年からNPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修病院事務担当者講習会も開催され、臨床研修指導医のみではなく、事務職員や看護職員など、医師の育成に係る他職種のWSも各団体で行われるようになり、FDの範囲は広がっている。

■文献

- 1) 堀内三郎, 田中 勲. 医学教育における Faculty Development. 医学教育白書 2002年版, 篠原出版新社, 東京, 2002, p.109-12.
- 2) 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会. 全国医学部, 病院における学内研修会 (FD) の実態調査報告. 2004年度.
- 3) 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会. 全国医学部, 医学系大学院における Faculty Development (FD) の実態調査報告. 2008年度調査.